

〔資料〕

わが国の保健医療領域における 家族システムユニットが曝露する家族イベントの概念分析

高谷 知史¹⁾ 本田 順子¹⁾ 法橋 尚宏¹⁾

要 旨

背景と目的：家族システムユニットが家族イベントに曝露すると、家族機能が向上／低下するといわれている。本研究は、わが国の保健医療領域における家族イベントの概念分析を行い、その特徴を明確にすることを目的とした。

方法：PubMed, CINAHL, 医中誌 Web を使用し、全年度の文献を対象とし、“家族” “イベント” “出来事” “family” “event” “Japan” をキーワードとして検索した。そのうち、家族システムユニットに影響を与えたイベントに関する記述がある68件を分析対象とし、ウォーカーとアーヴァントの方法を参考に概念分析を行った。

結果：家族イベントの属性として《変化した家族構造》《変化した家族形態》《変化した家族と社会との交流》《家族員全員の変化し続ける精神状態》《変調した家族の目標》という家族環境における事象が抽出され、先行要件として《家族／家族員の健康・生活》《伝統・文化・宗教》《家族の目標》などが明らかとなった。帰結として《ヘルスケア機能の変動》《家族システムユニットストレスへの不適応》など、家族機能の変動と家族症候の出現／消失に関する内容が抽出された。

考察と結論：家族イベントは“家族環境で生起し、家族機能の変動と家族症候の出現／消失を導く事象”と定義づけられた。家族イベントの発生には、《家族／家族員の健康・生活》《伝統・文化・宗教》などの家族環境における事象が先立っており、これらを臨床における看護職者が把握することで予防的な家族支援につながると考える。

キーワード：家族イベント、出来事、概念分析、保健医療、家族機能

1. はじめに

家族機能の低下や家族問題の増加は、家族システムユニットが曝露する出来事（家族イベント）が関与していることが指摘されている（法橋, 樋上, 小林他, 2010）。また、家族ストレス対処理論をもとにしたABC-Xモデル（Hill, 1949）では、家族における特定のイベントによって家族に危機状況が引き起こされるとしている。イベントには、ライフイベント、慢性的問題、日常の些細な出来事があり（石

原, 2008）、ライフイベントは看護学や社会学の分野で研究が行われている。社会的再適応尺度（Social Readjustment Rating Scale, SRRS）（Holmes, Rahe, 1967）では、ライフイベントがもたらす衝撃の大きさを数値化し、個人のストレスへの影響を明らかにしている。また、ストレスフルなライフイベントが多いほど家族機能は低下し、こどもへの暴力、収入の低下、養育者のうつ気分のような特定のライフイベントが家族機能低下に関連していることが指摘されている（塩川, 2007）。しかし、これらはイベントによる個人への影響に限局されていたり、乳幼児の養育者という限られた家族の成長・発

1) 神戸大学大学院保健学研究科家族看護学分野（家族支援 CNS コース）

達区分における家族イベントであって家族イベントの一部を明らかにしたものに過ぎない。イベント研究の多くは個人に重点が置かれ、家族全体のシステムの視座から捉えた家族イベントについては重視されていない(亀口, 長谷川, 滝口他, 2009)。

一方で、家族イベントに関連した先行研究では、重症患者がいる家族(中野, 2011; 迫田, 2008; 藤野, 清澤, 秋山他, 2000, 2002), 終末期患者がいる家族(芳賀, 神馬, 稲葉, 2007; 玉城, 古謝, 平川他, 2008; 石堂, 新貝, 2007; 青木, 長濱, 三浦, 2005), 障がいをもつ子どもがいる家族(小池, 幸福, 2004; 富澤, 2002)に対して、家族ストレス対処理論を用いて分析した事例研究がある。しかし、家族が曝露した具体的な家族イベントを示すことに留まり、家族イベントの定義は明らかではない。また、家族は文化などによって異なる家族構造や家族形態があることに加え、保健医療領域で従事する看護職者は、ヘルスケアニーズの高い家族員がいる家族への支援を行うことが多い。したがって、日本の保健医療領域に関する国内外の文献を分析し、わが国の保健医療領域における家族イベントの定義を明らかにすることは、わが国の看護職者による家族支援をより効果的なものとするために必要である。

本研究では、家族システムユニットに影響する家族イベントと家族員のみに影響する家族員イベントを区別し、国内外の文献を対象としてわが国の保健医療領域における家族イベントの概念分析を行い、その特徴を明らかにすることを目的とした。

II. 方法

1. 文献収集方法

文献データベースとして医中誌Webを用い、全年度の文献を対象とし、検索語を(家族/ TH or 家族/ AL) and ((記念日と特別行事/ TH or イベント/ AL) or 出来事/ AL) and (PT=原著論文)とし、326件の文献が検索できた(2012年4月)。さ

らに、PubMedおよびCINAHLを用い、全年度の文献を対象とし、検索語を("family" ("events" or "event")) AND "Japan" [Title/Abstract]として検索した結果、それぞれ134件と34件の文献が検索できた(2015年5月)。家族員個人に関するイベントや出来事として記述している文献、医学的な実験の際に使用されるイベントなど、明らかに特性の異なる内容の文献を除外基準とし、家族システムユニット全体に影響をおよぼす家族が曝露したイベントに関する文献を選択基準とし、68件の文献を分析対象とした(表1)。

2. 概念分析の方法

家族システムユニットが曝露する“家族イベント”という概念を明らかにするため、ウォーカーとアーヴァントの方法(Walker, Avant, 2010)を参考にした概念分析の手法を用いた。本手法では、曖昧な概念の範囲や類似した他概念との境界を明確にできるため、家族員個人のイベントとの境界が曖昧である家族イベントという概念を定義することに適していると判断した。文献を精読し、家族に影響を与えていた“イベント”“出来事”という用語を用いた記述を抽出し、それらの文脈上の意味から属性を明らかにした。

次に、この概念をより明確にするために、文献から家族イベントが生起する前提となるものを吟味し、先行要件として示した。さらに、家族イベントが生起した際、家族あるいは家族員に対してどのような帰結が生じるかを吟味し、帰結を見出した。分析過程では、概念の先行要件、属性、帰結の内容について、それぞれ類似性と相違性を検討しながらカテゴリー化し、抽象化することで概念の特徴を明らかにした。

すべての分析は家族看護学の研究者3名で合意が得られるまで検討を重ね、同時に研究者6名の意見を聞きながら反復的に行い、厳密性を保証した。

表1. 文献検索の結果

文献番号	タイトル	筆頭著者	書誌事項
1	2001年9月11日米国同時多発テロ事件の日本人低学年児童とその家族への影響	斉藤卓弥	精神科治療学, 20(5): 535-543, 2005
2	Drotarらの先天奇形を持つ子どもを出産した親の反応仮説モデルの分析	深谷久子	日本新生児看護学会誌, 12(1): 9-20, 2006
3	ICU退室に対して不安が強い患者家族への退室受容過程への援助	岩波道子	甲信ICUセミナー誌, 17(2): 42-47, 2001
4	「お産劇」で明らかになった妊婦の要望からみた助産師の役割: 名古屋市立病院助産師会の活動より	長屋里美	名古屋市立病院紀要, 32: 85-87, 2010
5	うつ病におけるDSM-III-R人格障害: その合併率とライフイベント, ソーシャルサポートとの関連	石井久敬	九州神経精神医学, 43(3-4): 194-201, 1997
6	うつ状態に関するライフイベントの研究: (その2) 自殺企図, 希死念慮について	吉岡顕一	神奈川県精神医学会誌, 42: 53-59, 1992
7	エコロジカル視点によってとらえる在宅高齢者のライフストレスとソーシャルワーク機能: 地域包括支援センターおよび在宅介護支援センターにおける援助事例分析の試み	武居幸子	ソーシャルワーク研究, 35(3): 229-238, 2009
8	「外傷的思春期」の一考察	小此木加江	精神分析研究, 50(4): 375-385, 2006
9	家族介護者の介護に対する肯定的側面と継続意向に関する検討	斉藤恵美子	日本公衆衛生雑誌, 48(3): 180-189, 2001
10	家族介護者の日常的な介護経験の構成要素と関連する要因の検討	丸山幸恵	北日本看護学会誌, 12(2): 27-37, 2010
11	家族周期段階別にみる訪問看護の役割: 長期在宅療養をした1事例から	細谷純子	福井県立大学看護短期大学部論集, 9: 39-52, 1999
12	過労自殺事例からみた自殺要因にかかわる研究	上畑鉄之丞	社会医学研究, 24: 1-10, 2006
13	がん治療過程における家族集団のゆらぎに関する研究	野村美香	死の臨床, 27(1): 69-75, 2004
14	がんを体験している夫に付き添う妻が夫の病気の意味を見いだしていく過程に関する研究	藤田佐和	高知女子大学紀要(自然科学編), 44: 91-107, 1996
15	救急重症患者家族の思いと行動: 搬入前・初療時・入院後	橋田由吏	日本クリティカルケア看護学会誌, 1(3): 46-59, 2006
16	急性期における家族のケア参加の意義	武井美佳	袋井市立袋井市民病院研究誌, 17(1): 103-107, 2008
17	緊急入室・生命の危機的状況にある患者の家族の援助: AguileraとMessickの問題解決モデルを用いて	泉水真紀	ICUとCCU, 31(11): 972-976, 2007
18	筋強直性ジストロフィー患者のQOL向上をめざして: 面会・行事参加・外泊に対する家族の思いから家族介入の検討	多田羅勝義	厚生省精神・神経疾患研究委託費による研究報告集: 筋ジストロフィー患者のケアシステムに関する総合的研究(平成11年度), 310, 2000
19	クローン病患者の思い: 社会・家庭環境面に焦点をあてた4名の面接を通して	高砂恵美	日本看護学会論文集: 成人看護II, 33: 87-89, 2003
20	高次脳機能障害者におけるピアカウンセリングの検討	植木昭彦	民医連医療, 438: 26-29, 2009
21	更年期の女性が体験するライフイベントと心身不調の実態及びその関連	菅沼ひろ子	家族看護学研究, 7(1): 2-8, 2001
22	高齢者におけるうつ病予防: 震災後一過性の抑うつ症状を呈した1事例	長井麻希江	看護実践学会誌, 21(1): 65-68, 2009
23	極低出生体重児の母子関係の発達: 特徴的な出来事があった事例の検討	谷口通英	日本新生児看護学会講演集10回: 100-101, 2000
24	子ども時代の親との死別後の悲嘆とソーシャルサポート	小島ひで子	臨床死生学, 9(1): 17-24, 2004
25	子ども同窓会: 小児病棟を退院した患者・家族への支援	吉川久美子	小児がん看護, 3: 101-103, 2008

表1. つづき

文献番号	タイトル	筆頭著者	書誌事項
26	「最重度」知的障害のある人のグループホーム入居決定要因に関する一考察：3家族の親へのインタビュー調査を通して	谷奥克己	臨床心理学研究, 47(1) : 2-21, 2009
27	施設ケア提供者の伝統行事への認識と高齢者ケアの実際：沖縄県宮古島の一介護老人福祉施設の事例	呉地祥友里	沖縄県立看護大学紀要, 11 : 51-57, 2010
28	疾患・障害をもつ児童生徒と家族の夏休み：学校外生活の現状	伊藤美樹子	日本地域看護学会誌, 3(1) : 187-192, 2001
29	失語症の夫を介護する妻の経験のプロセス：ある中年期女性のライフストーリーの分析より	岸恵美子	日本在宅ケア学会誌, 14(1) : 47-56, 2010
30	若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対処方略パターンとその変化	小川久貴子	日本保健科学学会誌, 12(2) : 77-90, 2009
31	重症心身障害のある子と死別した母親の11年間の「思い」と「生活」に関する研究	牛尾禮子	日本重症心身障害学会誌, 36(3) : 499-502, 2011
32	終末期がん患者を在宅で介護する家族にもたらされる Enrichment	石本万里子	日本がん看護学会誌, 23(1) : 31-43, 2009
33	出産を契機に発症した遅発性 anorexia nervosa の1例	奥田理理	精神科, 9(2) : 168-172, 2006
34	障害児の母親が感じる生活困難と対応の仕方：子どもの障害を「知らされる」から「理解してもらう」プロセスについて	朝倉和子	東京家政学院大学紀要 (人文・社会科学), 47 : 11-19, 2007
35	小児がん患児をもつ母親、父親の外傷後ストレス症状：出来事インパクト尺度改訂版 (IES-R) による解析	高宮静男	小児がん：小児悪性腫瘍研究会記録, 47(1) : 60-67, 2010
36	小児がん経験者の子どもを持つ父親と母親の語りからみる療養生活構築のプロセス	田邊美佐子	The Kitakanto Medical Journal, 58(1) : 35-41, 2008
37	小児癌で子供を亡くした母親の社会化の研究	柳原清子	日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 12 : 45-53, 1999
38	初老期・老年期の夫婦受診例5組の検討	妹尾晴夫	老年精神医学雑誌, 7(8) : 897-902, 1996
39	精神分裂病家族教室への家族の参加状況に影響を与える要因	西尾雅明	臨床精神医学, 30(6) : 637-645, 2001
40	切迫早産の初産婦の夫の妊娠や出産、父親になることに対する気持ちの変化：入院から出産までの追跡	新川治子	日本助産学会誌, 20(2) : 64-73, 2006
41	早産児をもつ父親が感じるストレス：妻の入院から児の退院まで	松本智津	インターナショナル Nursing Care Research, 8(3) : 123-131, 2009
42	知的発達障害児を抱える家族のファミリーレジリエンスを育成するための家族介入モデルの開発	入江安子	日本看護科学学会誌, 31(4) : 34-45, 2011
43	低出生体重児の入院から退院後の一貫した家族支援：父母の会を設立しての現状と課題 第一報	西江利子	日本新生児看護学会講演集14回 : 226-227, 2004
44	糖尿病をもつ壮年期の女性の自己管理と日常生活との関連：専業主婦に焦点をあてて	伊藤ふみ子	横浜創英短期大学紀要, 4 : 31-40, 2008
45	トランスジェンダーを生きる当事者と家族：人生イベントの羅生門的語り	荘島幸子	質的心理学研究, 7 : 204-224, 2008
46	日本の若年妊婦のストレスフルライフイベントにおける対人関係による認知的評価の変化	小川久貴子	日本保健科学学会誌, 13(4) : 145-159, 2011
47	入院中における遊びの必要性の再考：アンケートを通して	前田陽子	旭川赤十字病院医学雑誌, 20 : 31-36, 2007
48	妊娠中の娘に対する実父の支援提供に影響する要因：第1報	中島通子	母性衛生, 49(4) : 556-563, 2009
49	配偶者と死別した高齢男性の成長感に影響を与える要因	宮島ひとみ	岐阜県立看護大学紀要, 11(1) : 37-44, 2011
50	配偶者との死別によってひとり親となった母親の研究：悲嘆のプロセスを中心として	新保幸男	ソーシャルワーク研究, 33(1) : 42-46, 2007

表1. つづき

文献番号	タイトル	筆頭著者	書誌事項
51	発達障害の子どもと生活する家族の強み：強みタイプ別の面接データ分析から	浅野みどり	日本看護医療学会雑誌, 5(1)：17-23, 2003
52	母親の育児支援に関する基礎的研究 (1)：保育園児を持つ母親の育児環境および仕事と育児の両立に関する意識	佐々木綾子	福井医科大学研究雑誌, 1(3)：427-445, 2000
53	母への支援が統合失調症患者の地域生活の継続を可能にした一事例：Aguilera, D. C., Messick, M. の「危機調整活動に対するアプローチ」を用いて	石川幸代	共立女子短期大学看護学科紀要, 4：29-39, 2009
54	被災児童の子どもの行動チェックリスト (CBCL) 得点とその養育者の出来事インパクト尺度改訂版 (IES-R) 得点との関連性について	斉藤陽子	心的トラウマ研究, 2：63-71, 2006
55	悲嘆緩和を目的とする某インターネットセルフヘルプグループの現状調査	片山佳代子	日本公衆衛生雑誌, 53(6)：424-431, 2006
56	慢性的な健康障害をもつ子どもの主なケア提供者のもえつきと関連要因：子ども・家族の背景と家族の病の捉え方に焦点をあてて	小野智美	神戸大学医学部保健学科紀要, 15：13-20, 1999
57	慢性的な健康障害をもつ子どもを養育する家族の対処と関連因子：家族対処パターンと病児の健康状態・家族特性との関連	村田恵子	神戸大学医学部保健学科紀要, 15：1-11, 1999
58	息子が劇症型心筋炎のため人工心肺補助装置を装着した母親の体験	勝木純子	倉敷中央病院年報, 73：81-87, 2011
59	幼児の養育者用ライフイベント質問票の作成	塩川宏郷	自治医科大学紀要, 30：165-172, 2007
60	ライフイベント法による児童・思春期精神障害の成因に関する研究 (その2)：児童・思春期におけるライフイベントと神経症圏の障害に関する研究	上林靖子	厚生省精神・神経疾患研究委託費研究報告書：児童・思春期精神障害の成因及び治療に関する研究 (平成元年度), 105-119, 1990
61	両性年齢依存シミュレーションモデルの構築	萩原潤	民族衛生, 67(4)：183-196, 2001
62	Social ties may play a critical role in mitigating sleep difficulties in disaster-affected communities: A cross-sectional study in the Ishinomaki area, Japan	Matsumoto, S.	Sleep, 37(1): 137-145, 2014
63	Religious care required for Japanese terminally ill patients with cancer from the perspective of bereaved family members	Okamoto, T.	Am J Hosp Palliat Care, 27(1): 50-54, 2010
64	The health and social system for the aged in Japan	Matsuda, S.	Aging Clin Exp Res, 14(4): 265-270, 2002
65	Seismic intensity and mental stress after the Great Hanshin-Awaji Earthquake	Maruyama, S.	Environ Health Prev Med, 6(3): 165-169, 2001
66	Factors which impact adaptation: Japanese with impaired mobility and their family caregivers	Nitta, S.	ProQuest Dissertations and Theses (UMI No. 9818002)
67	Health care, crisis management, and the third gender: The disruption of childhood illness and death in the lives of Japanese women	Saiki, S. C.	ProQuest Dissertations and Theses (UMI No. 9523557)
68	Long distance Japanese marriage: Maintaining harmony during separation	Yamashita, M.	ProQuest Dissertations and Theses (UMI No. 9123563)

III. 結果

属性, 先行要件, 帰結のカテゴリーは《 》, サブカテゴリーは【 】で示した.

1. 概念の属性

家族イベントは, 《変化した家族構造》《変化した家族形態》《変化した家族と社会との交流》《家族員全員の変化し続ける精神状態》《変調した家族の目標》の5つのカテゴリー, 12のサブカテゴリーで構

表2. 家族イベントの属性

属性 (カテゴリー)	サブカテゴリー	下位データ	表1の文献番号
変化した家族構造	家族内対人関係問題	家族員同士の関係の変化 家族員同士の交流	5, 9, 23, 30, 34, 38, 46 18, 21, 32, 45, 53
	変化した家族内役割	家族内役割の発生 家族内役割の代替・加重	9, 11, 33, 48, 49, 51, 52 13, 14, 40, 67
	変化した家族の生活環境	家族の生活の変化 家族住居の変更 家族の経済的負荷	7, 10, 19, 39, 55, 62, 66 7, 22, 51, 62 11, 12, 21, 24, 59
変化した家族形態	家族員の増加	出産による家族員の増加	2, 46, 59, 61
	家族員の減少	死別による家族員の減少 同居する家族員の減少	8, 24, 37, 38, 50, 61, 65 12, 26, 38, 58, 62, 68
変化した家族と社会との交流	家族外対人関係問題	家族同士の家族交流 家族外の人々との関係の変化	27, 28, 44, 47, 49 34, 46, 60, 63
	家族と社会との関係の隔たり	家族と社会との関係の変化 家族と社会との隔たり	11, 38, 45, 64 7, 21
	保健・医療・福祉施設からの支援	家族への医療職者からの支援 家族同士の互助活動の支援	4, 41, 43 20, 25
家族員全員の変化し続ける精神状態	精神的負荷と安定の反復	精神的負荷と安定の反復	31, 35
	家族員全員の継続する精神的負荷	家族環境全体の変化による継続負荷 家族員全員の精神的負荷	1, 16, 36, 38, 54 3, 6, 13, 15, 17, 41, 56
変調した家族の目標	家族像の実現への困難・課題	家族像の実現への困難・課題	41, 42, 57
	家族目標の調整	家族目標の調整	29, 31, 36, 50

成された (表2)。

1) 《変化した家族構造》: 何らかの要因で家族構造 (家族構造とは, 役割構造, 価値構造, 勢力構造, コミュニケーション構造のこと) が変化する事象であった。【発生・変化した家族内対人関係】は, 家族内部の関係や交流が変化する事象, 【変化した家族内役割】は, これまでとは異なる役割が家族内部で生起する事象, 【変化した家族の生活環境】は, 家族内部の生活環境が変化する事象であった。

2) 《変化した家族形態》: 家族員の増減という家族形態 (家族形態とは, 家族規模と家族構成のこと) が変化する事象であった。【家族員の増加】は, 家族内部に新たな家族員が加わる事象, 【家族員の減少】は, 家族員が減少する事象であった。

3) 《変化した家族と社会との交流》: 家族と家族外部との関係や交流が変化する事象であった。【発生・変化した家族外対人関係】は, 家族と家族外部のひととの交流が生じたり, 関係が変化したりする事象, 【家族と社会との関係の隔たり】は, 家族と家族外部のコミュニティとの関係が変化する事象,

【保健・医療・福祉施設からの支援】は, 医療職者が家族を支援する事象であった。

4) 《家族員全員の変化し続ける精神状態》: 家族を構成する家族員の精神状態が継続的に変化し続ける事象であった。【精神的負荷と安定の反復】は, 継続して精神状態が変化する事象, 【家族員全員の継続する精神的負荷】は, 家族を構成する家族員全員に継続的な負荷が生じる事象であった。

5) 《変調した家族の目標》: 家族が希望する家族像や生活目標などに変調をきたす事象であった。【家族像の実現への困難・課題】は, 家族が将来的に目指す理想的な姿の実現に対して困難や課題を抱える事象, 【家族目標の調整】は, 家族が理想とする生活を調整する事象であった。

2. 先行要件

先行要件としては, 《家族/家族員の健康・生活》《家族の成長・発達区分》《家族員のスピリチュアリティ》《家族員間の接触・交流》《家族の住生活環境》《家族員間の関係》《家族/家族員ビリーフ》などの18のカテゴリー, 43のサブカテゴリーが抽出され

た。なお、()内の文献番号は表1に対応する。

- 1) 《家族／家族員の健康・生活》：【家族の健康セルフケア】(文献51)，【家族員の健康状態】(文献3, 5, 6, 8, 13, 14, 15, 16, 17, 25, 31, 35, 36, 37, 38, 39, 40, 43, 45, 50, 52, 53, 55, 56, 57, 58, 59, 66, 67)，【家族の経済力】(文献59)，【家族の習慣】(文献27)，【家族の過ごし方】(文献28)のように，家族／家族員の健康状態や生活状況が述べられていた。
- 2) 《家族の成長・発達区分》：【社会進出】(文献11, 56, 57, 60)，【結婚・妊娠・出産】(文献2, 4, 11, 23, 30, 33, 40, 41, 48, 55, 56, 57)，【介護】(文献9, 10)のように，家族の成長・発達区分に特徴的な出来事が述べられていた。
- 3) 《家族員のスピリチュアリティ》：【生きている価値・意義】(文献10, 11, 18, 22, 32, 45)，【将来への希望】(文献27, 29)，【人生の心構え】(文献26, 29)，【生死の意識】(文献15, 32)のように，家族員の生きる根源や希望など目には見えない超越的な事象が述べられていた。
- 4) 《家族員間の接触・交流》：【家族員の交流】(文献21, 32, 45, 53)，【パートナー】(文献30, 46, 49, 55, 61)，【親子】(文献33)のように，家族員同士の交流や自分以外の家族員の存在が述べられていた。
- 5) 《家族の住生活環境》：【住生活環境】(文献7, 22, 51, 60, 68)のように，家族が生活する環境が述べられていた。
- 6) 《家族員間の関係》：【夫婦関係】(文献38, 49, 55)，【親子関係】(文献24, 33)，【カップル関係】(文献19)，【きょうだい関係】(文献45)のように，家族内部の関係のあり様が述べられていた。
- 7) 《家族／家族員ビリーフ》：【健康に対する信念】(文献10)のように，思い込みや信じ込みであるビリーフが述べられていた。
- 8) 《伝統・文化・宗教》：【家族が生活する地域の慣習・伝統・文化，家族／家族員が信じる宗教】(文献27, 44, 63)が述べられていた。
- 9) 《社会ルール》：【就労規定】(文献26)，【入居規定】(文献26)，【保険制度】(文献64)のように，家族

員の生活する社会における規律やルールが述べられていた。

- 10) 《社会情勢》：【テロ事件】(文献1)のように，家族が生活する国や地域などの社会情勢が述べられていた。
- 11) 《家族外との人的接触・交流》：【人災】(文献50)，【医療職者】(文献43)，【親類】(文献30)，【職場のひと】(文献38)，【友人・知人】(文献47)のように，家族／家族員の家族外部のひととの遭遇や交流が述べられていた。
- 12) 《生活基盤となる施設》：【保健・医療・福祉施設】(文献4, 20, 25, 41)，【職場】(文献56, 57)のように，家族の生活基盤となっている施設や職場が述べられていた。
- 13) 《自然現象》：【災害】(文献22, 54, 62, 65)のように，家族が生活する地域において遭遇する自然現象が述べられていた。
- 14) 《家族外との人間関係》：【職場の人間関係】(文献5, 12, 38)，【親類との人間関係】(文献30)，【医療職者との人間関係】(文献25)のように，家族／家族員と家族以外のひととの関係が述べられていた。
- 15) 《家族員の慢性疾患》：【トランスジェンダー】(文献45)，【高次機能障害】(文献20)，【身体的・知的障がい】(文献29, 34, 41, 42)のように，家族員の慢性疾患や障がいが述べられていた。
- 16) 《家族への災害の席卷》：【災害】(文献22, 54)のように，家族が継続的に自然現象によって席卷されることが述べられていた。
- 17) 《家族の目標》：【夫婦の健康目標】(文献31)のように，家族の未来志向の健康目標が述べられていた。
- 18) 《家族像》：【家族の理想像】(文献41)のように，未来志向で家族が理想とする姿が述べられていた。

3. 帰結

《家族機能の変動》と《家族症候の出現／消失》の2つのカテゴリーに分類された。なお、()内の文献番号は表1に対応する。

1) 《家族機能の変動》: 家族機能 (家族員の役割の履行により生じ, 家族システムユニットが果たす認知的働きならびに家族環境に対する認知的力) が向上あるいは低下する事象である。【情意充足機能の変動】では, 家族員の役割意識による凝集性・適応力の高まり (文献9, 11, 15, 24, 30, 48, 50), 家族間の関係性の充足 (文献31, 32, 36, 58), 家族間の関係性の未充足 (文献7, 37, 53, 56, 68), 家族員の感情・満足感の未充足 (文献3, 15, 16, 17, 31, 37, 42, 49, 50, 51, 56, 59, 67) のように, 家族員相互の関係性を充足する働き, 家族員相互の関係性や精神的な安寧を満たすことができない事象が述べられていた。【人格形成機能の変動】では, 家族員の人格の安定化・不安定化 (文献7, 10, 23, 29, 30, 32, 36, 40, 45, 49), 家族員の社会化 (文献11, 20), 家族員の社会化への負い目 (文献11, 45) のように, 家族員の人格が変動する事象, 家族員の社会化を行う事象が述べられていた。【ヘルスケア機能の変動】では, 家族員へのヘルスケア提供の促進 (文献19, 31, 51, 57, 67), 家族員へのヘルスケア提供不足 (文献1, 2, 7, 8, 13, 22, 33, 54), 家族員へのヘルスプロモーションの低下 (文献11, 21, 39, 44) のように, 家族員に必要なヘルスケアを提供したり, 逆に提供できない事象が述べられていた。【生命維持機能の変動】では, 家族員の安全を求める欲求の未充足 (文献7) のように, 家族員の基本的ニーズを満たせない事象が述べられていた。【生活保障機能の変動】では, 家族員への安楽な生活が保障できない (文献7, 14, 49, 67), 家族員への経済的な生活水準の保障ができない (文献14, 59) のように, 家族員の生活水準の維持が困難になる事象が述べられていた。【家族外部資源の活用機能の変動】では, 家族外のひととの関係の向上 (文献36), 家族員による自助の資源活用 (文献55, 67), 家族員への共助の資源活用の促進 (文献4, 11, 20, 25, 27), 否定的感情による資源活用の低下 (文献7, 39) のように, 家族外部資源の活用を促進する事象と家族外部資源の活用が困難になる事象が述べられていた。

2) 《家族症候の出現/消失》: 家族の困難状態が出現したり, 消失する事象である。【家族ニーズの未充足】では, 家族員の人的資源の不十分さ (文献1, 14, 51, 52) のように, 家族員が共有している家族ニーズを充足できていない状態が述べられていた。【家族の逸脱現象の派生】では, 家族員に対する逸脱行動 (文献59), 家族員自身に対する逸脱行動 (文献12, 59) のように, 家族危機の対処を誤り, 虐待や自殺企図に至る状態が述べられていた。【家族内外の対人関係障害】では, 家族員同士の対人関係の向上 (文献58), 家族員同士の対人関係の障害 (文献7, 19, 33, 38, 53), 家族外部と家族との関係の障害 (文献45) のように, 家族の内外のひととの関係が障害された状態が述べられていた。【家族システムユニットストレスへの不適応】では, 家族内のストレスへの不適応 (文献13, 31, 35, 39, 41, 42, 56), 家族外のストレスへの不適応 (文献22, 30, 41) のように, 家族が危機対応資源でストレスに対処できていない状態が述べられていた。【家族の成長に関わる発達力不足】では, 家族役割への適応 (文献26), 家族役割の逃避 (文献13, 30, 41) のように, 家族形態の変化が生じたときに家族役割への適応ができていない状態が述べられていた。【家族セルフケア力の低下】では, 治療コンプライアンス不良 (文献44) のように, 家族のセルフケア力が低下している状態が述べられていた。【家族員のスピリチュアルペインによる家族の苦悩】では, 家族員相互のスピリチュアルペインの癒し (文献24, 32) のように, 家族員のスピリチュアルペインに対して家族がその対処に苦悩している状態が述べられていた。

4. 家族イベントの定義

概念分析により抽出された5つの属性は, 家族システムユニットに外在/内在するあらゆる事物 (ひと, もの, こと) や現象である家族環境 (法橋, 樋上, 小林他, 2010) が変化した事象で構成されていた。したがって, わが国の保健医療領域における家族イベントは, “家族環境で生起し, 家族機能の変

動と家族症候の出現／消失を導く事象”であり、家族環境で生起する事象は、変化した家族構造，変化した家族形態，変化した家族と社会との交流，家族員全員の変化し続ける精神状態，変調した家族の目標であると定義できた。

IV. 考 察

1. 家族イベントの概念モデル

家族システムユニットのウェルビーイングに作用する家族環境（家族内部環境，家族外部環境，家族時間環境）に焦点化した家族看護理論として，家族同心球環境理論（Concentric Sphere Family Environment Theory, CSFET）が提唱されている（Hohashi, Honda, 2011）．家族イベントは家族環境において生起することが明らかになったため，CSFETの枠組みで整理することによって家族イベントの概念モデルを構築できると考える．家族イベントは，《変化した家族構造》《変化した家族形態》という家族内部環境システムにおける変化，《変化した家族と社会との交流》という家族システムユニットと家族外部環境システムの間における変化，そして，

《家族員全員の変化し続ける精神状態》《変調した家族の目標》という未来志向的に継続・持続する家族時間環境システムにおける変化があり，これらの3つの視座から捉えることができる．すなわち，家族システムユニットと家族環境との間に生じる変化こそが，家族イベントの特徴といえる．

家族システムユニットは，家族内部環境システムとの相互作用，家族外部環境システムとの交互作用によって家族機能を発揮するため（法橋，樋上，小林他，2010），家族環境の変化に曝露することによって家族機能が向上あるいは低下という《家族機能の変動》を繰り返すことになる．そして，家族機能の変動に伴い，家族症候を呈したり，消失したりするという《家族症候の出現／消失》を繰り返すと考えられる．また，家族イベントの発生に先立つ事象として，18のカテゴリから構成される先行要件が存在し，これらはそれぞれ家族内部環境システム，家族外部環境システム，家族時間環境システムにおける事象として分類することができる．以上の先行要件，属性，帰結の関連から，CSFETに準拠した家族イベント概念モデルが想定できると考えた（図1）．

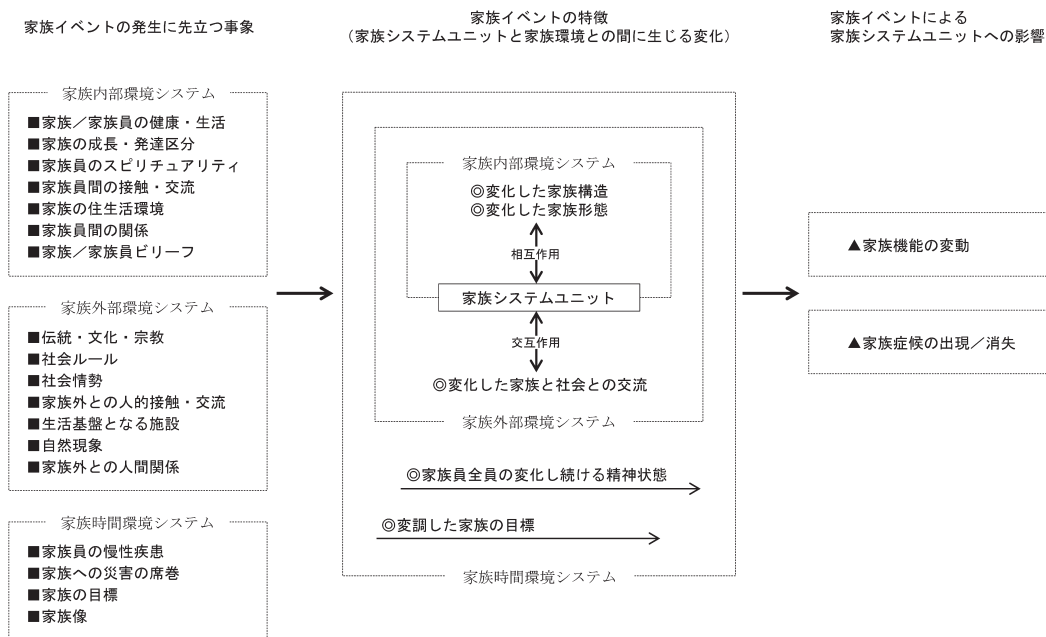


図1. 家族イベント概念モデル
カテゴリ名は■，◎，▲で明示した。

家族システムユニットと家族環境との相互作用／交互作用の過程が家族機能や家族症候を規定していることから（法橋，樋上，小林他，2010），ホリスティックに捉えた家族ウェルビーイングに作用する家族環境で生起する家族イベントと家族システムユニットが相互作用／交互作用することで，家族機能の変動や家族症候の出現／消失が導かれると考えられ，本研究で明らかにした家族イベントは家族ウェルビーイングの達成に重要な概念であるといえる。他方で，分析過程において，家族イベントの帰結である家族機能の変動や家族症候の出現／消失を左右する影響因子として，家族は助け合うという美学（柳原，近藤，1999）やイベントの認識のあり方（菅沼，串間，宮里，2001）のように，家族資源や家族イベントに対する認識の存在が示唆された。これらの影響因子を制御することは家族機能の向上や家族症候の消失のための支援になるので，これらを明らかにすることは今後の課題である。

2. 家族イベントの類似概念との類似点と相違点

家族ストレス対処理論をもとにしたABC-Xモデル（Hill, 1949）の3つの要因に関する先行研究のレビューでは（石原，2008），ストレッサーとなる出来事（A要因）は，発生場所の区分として家族内部と家族外部に分類されている。前者としては心身の異常に関わるもの（病気など），役割行動の不全（浪費など），関係の不全（不和・葛藤），家族員の欠落（死亡など），家族員の加入（同居など）があげられ，後者としては，戦争，自然災害，不況・失業などがあげられている。家族イベントの属性は，このA要因と類似した構造をしていると考える。しかし，A要因には，家族イベント概念モデルにおける先行要件にあたる事象と属性にあたる事象が混在している点で相違がある。したがって，ABC-Xモデルを用いると，ストレッサーとなる出来事が生じるきっかけ，出来事に影響している事象をアセスメントすることは困難であると考えられる。

一方で，家族イベント概念モデルでは，変化した家族環境を家族システムユニット単位の事象として

属性を明らかにし，先行要件はそれに影響する事象として両者を明確に区別している。したがって，家族機能の変動や家族症候の出現／消失を呈する可能性のある家族イベントに先立つ事象をアセスメントすることが可能となり，予防的な家族支援に有用となる。さらに，本概念モデルでは，家族時間環境システムを包含した概念として家族イベントを捉えていることが特長である。これによって，家族システムユニットの将来に向けた成長および発達に影響を与える家族イベントが明らかとなり，家族の現在から将来に向けた家族ウェルビーイングへの支援の焦点を明らかにすることが可能になる。また，家族が将来を見据えて過去の家族イベントによる経験値を高めることで，現在と未来は家族自身で変えることが容易になるため（法橋，樋上，小林他，2010），家族時間環境システムで生起する家族イベントを明らかにしたことは，家族の問題対処力を高める予防的家族支援にもつながると考える。

ABC-Xモデルにおける家族の危機対応資源（B要因）については，家族内部のみならず家族外部の動員・利用可能な資源も含めて考えている（石原，2008）。本研究において示唆された“家族は助け合うという美学”のような家族内部資源が，これと類似している。また，出来事に対する家族の意味付け（C要因）については，家族が置かれた状況に対して，どのように受け止めて意味付けをするかによって危機発生に差異が出てくることが明らかになっており（石原，2008），本研究で示唆された“イベントの認識のあり方”のような家族のイベントに対する認識と類似している。したがって，B要因とC要因は，家族イベント概念モデルにおける帰結を左右する影響因子となりうるということが裏付けされたと考えられる。これらのことから，本研究における家族イベント概念モデルは，ABC-Xモデルの要素を包含した概念であるといえる。

3. 家族イベントと家族員イベントの相違

家族イベントは，家族機能の変動と家族症候の出現／消失を導く事象，すなわち，家族システムユ

ニットにポジティブな側面とネガティブな側面をもたらす事象である。ライフイベントに関する研究では、ネガティブな側面については、配偶者や近親者との死別のような出来事が遺族にとって大きな衝撃を与える出来事として知られている (Holmes, Rahe, 1967)。一方、近年、イベントがポジティブな結果をもたらすというストレス関連成長 (stress-related growth, SRG) が注目され (Park, Cohen, Murch, 1996)、わが国では、死別経験による遺族のポジティブな内面的変容を人間の成長 (宮島, 北山, 2011; 東村, 坂口, 柏木, 2001) とし、イベントによる肯定的な側面を明らかにしている。これらは、家族イベントがポジティブとネガティブな両面的な結果をもたらすことを裏付けると考えられる。

家族イベントは、家族員個々による経験に留まらず、家族システムユニット全体が経験する事象であり、家族イベントの帰結として生じる現象は、あくまで家族システムユニット全体の変容を意味している。一方で、従来のイベントに関する研究では、ライフイベントによる個人のストレスへの影響に焦点が当てられているものが多く、個人である家族員の変容を記述するに留まっている。このような家族員の変容に留まる事象は家族員イベントと呼称し、“家族員の個々の環境で生起し、家族員個人のストレスを導く事象”と定義することによって、家族イベントと区別することができる。さらに、本研究では、妊娠や出産などの個人のライフイベント、すなわち家族員イベントと捉えられる事象でも、家族システムユニットとして家族構造や形態の変化が生じれば、家族イベントと見なすことができ、家族機能の変動や家族症候の出現/消失をきたすことが示唆された。したがって、個人のストレスを引き起こす事象を家族システムユニットへの影響を範疇とした家族看護学研究として分析し、家族イベント概念モデルをさらに洗練することが必要である。

4. 臨床における家族イベントの概念の活用

わが国では、近年の医療制度改革による平均在院日数の短縮などの影響で、健康障害をもちながら地域で生活する家族員がいる家族が増加している。家族がいる場 (病院, 地域など) にかかわらず、保健医療領域における家族イベントを明らかにしたことによって、家族のウェルビーイングの実現に向け、家族機能を維持・向上させる家族支援を実践する際の家族アセスメント指標への応用が期待できる。

V. 結 論

家族システムユニットが曝露する家族イベントの概念を明らかにするために概念分析を行った結果、家族イベントは“家族環境で生起し、家族機能の変動と家族症候の出現/消失を導く事象”と定義することができた。家族イベントの発生には、家族内部環境システム、家族外部環境システム、家族時間環境システムにおける事象が影響しており、これを臨床における看護職者が把握することで予防的な家族支援につながると考える。

謝 辞

本研究は、科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) (研究課題番号 24390498) の助成を受けたものである。

{ 受付 '14.08.15 }
{ 採用 '15.12.09 }

文 献

- 青木富美江, 長濱千春, 三浦比呂子: 家族役割機能を喪失した終末期患者家族の援助: マッカバンの二重ABCXモデルを使用して, 死の臨床, 28(2): 211, 2005
- 藤野洋子, 清澤美穂子, 秋山裕子, 他: 緊急でCCUへ入室となった重症心不全患者の家族への看護: マッカバンの二重ABCXモデルを使用し, 危機介入を試みて, 共済医報, 49: 212, 2000
- 藤野洋子, 清澤美穂子, 秋山裕子, 他: ABCXモデルを用いた重症者の家族への介入, 共済医報, 51(1): 55-59, 2002
- 芳賀真由美, 神馬千登勢, 稲葉孝子: 終末期の患者を抱えた家族のストレスと危機への看護介入: 二重ABCXモ

- ルの分析から, 日本看護学会論文集: 成人看護II, 37: 110-112, 2007
- 東村奈緒美, 坂口幸弘, 柏木哲夫: 死別経験による成長感尺度の構成と信頼性・妥当性の検証, 臨床精神医学, 30(8): 999-1006, 2001
- Hill, R.: Families under stress: Adjustment to the crises of war separation and reunion, New York, Harper & Brothers, 1949
- 法橋尚宏, 樋上絵美, 小林京子, 他: 法橋尚宏編集, 新しい家族看護学: 理論・実践・研究, メヂカルフレンド社, 東京, 2010
- Hohashi, N., Honda, J.: Development of the Concentric Sphere Family Environment Model and companion tools for culturally congruent family assessment, Journal of Transcultural Nursing, 22(4): 350-361, 2011
- Holmes, T. H., Rahe, R. H.: The social readjustment rating scale, Journal of Psychosomatic Research, 11(2): 213-218, 1967
- 石堂曜子, 新貝夫弥子: ギアチェンジにおける家族危機への看護: 二重ABCXモデルを用いて, 日本がん看護学会誌, 21: 162, 2007
- 石原邦雄: 家族のストレスとサポート (改訂版), 放送大学教育振興会, 東京, 2008
- 亀口憲治, 長谷川啓三, 滝口俊子, 他: 日本家族心理学会編集, 家族のストレス, 金子書房, 東京, 2009
- 小池伸一, 幸福秀和: 障害をもつ子どもの母親の心理過程に影響を与える要因とその変化: 二重ABCXモデルを援用した分析, 作業療法, 23: 378, 2004
- 宮島ひとみ, 北山三津子: 配偶者と死別した高齢男性の成長感に影響を与える要因, 岐阜県立看護大学紀要, 11(1): 37-44, 2011
- 中野恭子: Emergency Case重症熱傷患者の家族における危機への対処: 対処過程の分析と看護の振り返り, エマージェンシー・ケア, 24(2): 183-188, 2011
- Park, C. L., Cohen, L. H., Murch, R. L.: Assessment and prediction of stress-related growth, Journal of Personality, 64(1): 71-105, 1996
- 迫田典子: 緊急入院により危機的状態にある家族に対する介入方法について: McCubbinの二重ABCXモデルを用いて, 家族看護学研究, 14(2): 122, 2008
- 塩川宏郷: 幼児の養育者用ライフイベント質問票の作成, 自治医科大学紀要, 30: 165-172, 2007
- 菅沼ひろ子, 申間秀子, 宮里和子: 更年期の女性が体験するライフイベントと心身不調の実態及びその関連, 家族看護学研究, 7(1): 2-8, 2001
- 玉城智美, 古謝真紀, 平川達二, 他: 突然の発症により短時間で死に至った患者家族へのターミナルケア: McCubbinの二重ABCXモデルを用いて, 日本クリティカルケア看護学会誌, 4(1): 102, 2008
- 富澤弥生: 長期間入院退院を繰り返す子どもを持つ家族の「家族適応」に関する事例分析: 二重ABCXモデルを用いた2事例の比較, 東北大学医療技術短期大学部紀要, 11(1): 57-64, 2002
- Walker, L. O., Avant, K. C.: Strategies for theory construction in nursing (5th ed.), Boston, Prentice Hall, 2010
- 柳原清子, 近藤博子: 小児癌で子供を亡くした母親の社会化の研究, 日本赤十字武蔵野短期大学紀要, 12: 45-53, 1999

A Family Event Revealed to the Family System Unit in Japan's Health and Medical Care Domain: A Concept Analysis

Satoshi Takatani¹⁾ Junko Honda¹⁾ Naohiro Hohashi¹⁾

1) Division of Family Health Care Nursing, Kobe University Graduate School of Health Sciences
(Certified Nurse Specialist [CNS] in Family Health Nursing Program)

Key words: Family event, Event, Concept analysis, Health and medical care, Family function

Background and Purpose: When the family system unit is challenged by a family event, it is said that such an event causes family functioning to improve or deteriorate. In this study, concept analysis was conducted on family events in Japan's health and medical care domain with the objective of clarifying their characteristics.

Methods: Utilizing PubMed, CINAHL and the Ichushi Web, a search was conducted for the key words "family," "event" and "Japan," without the restriction of publication year. Of these, a total of 68 articles related to an event that affected the family system unit were selected, and concept analysis was performed with references to Walker and Avant's technique.

Finding: As the attributes for family events, such phenomena in the family environment as "changes in family structure"; "changes in family form"; "changes in exchanges between the family and society"; "continuing changes in the mental condition of all family members" and "modified family goals" were extracted. As antecedents, "health and life of family and family members"; "traditions, culture and religions"; "family goals" and others were clarified.

As consequences, such contents as fluctuation in family functioning and the appearance and cessation of such family signs/symptoms as “fluctuation in health care functioning,” “non-adaptation toward stress to the family system unit” and others were extracted.

Discussion and Conclusions: Family events are defined as “phenomena that occur in the family environment, and which lead to the fluctuation in family functioning and the appearance or cessation of family signs/symptoms.” The occurrence of family events is preceded such changes in the family environment as “health and life of family and family members,” “traditions, culture and religions” and others, and it is believed that nursing professionals’ grasping of these factors may be linked to preventive family intervention.